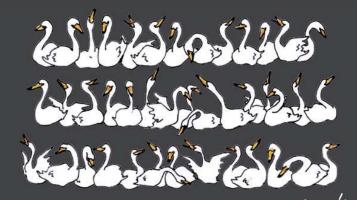
Café de Probabilité

ありえないはありえない

極めて低い確率の哲学

A Plea for the Improbable: Philosophy of Very Low Probability





日 時:2017年9月12日(火) 19:00~20:30 開場 18:30

会 場:北海道大学総合博物館 1 階 知の交差点

ゲスト: アラン・ハイエクさん (オーストラリア国立大学 教授) Alan HÁJEK (Australian National University, Professor)

聞き手:松王 政浩 (北海道大学 大学院理学研究院 教授/ 同 高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター センター長)

主 催:北海道大学 CoSTEP・文学研究科 哲学講座・理学研究院 科学基礎論研究室

後 援:応用倫理研究教育センター・総合博物館

協 力:ミュージアムカフェ ぽらす

日本語による 逐次通訳付

ワンドリンク制 (隣のカフェぼらすでご注文ください)

事前申込制 先着約 30 名 申し込みはこちら→https://goo.gl/gCFCkU









私たちはつい、「そんなことはまず起こりっこない」という考え方をしてしまいます。 つまり、ある事が起 こる可能性(確率)の大きさだけで行動を決めがちです。たとえば、「今後 30 年間に、この地域が大地震に 見舞われる確率は1%|と聞いたときに、きっと多くの人が「1%|という確率だけで安心してしまうでしょう。 けれども、これは確率の捉え方として適切でしょうか?あるいは、リスクに関する私たちの意思決定の方法 として適切でしょうか?今回お招きする、確率の哲学がご専門のアラン・ハイエクさんは、むしろ「起こり そうにもないことに注意をむけよう」と言います。果たしてその理由は?17世紀のパスカルの頃から論じ られてきた「低い確率」をめぐる深い話に、きっとあなたの確率の見方が変わることでしょう。日本語によ る逐次通訳付です。お気軽にご参加ください。

ゲストプロフィール

アラン・ハイエクさん (オーストラリア国立大学 教授)

Alan HÁJEK (Australian National University, Professor)



専門は確率論の哲学的基礎付け、意思決定理論、認識論、科学哲学など。 数学、統計学にも通じている。特に「条件付き確率がすべての確率の基 礎である」という主張は有名で、確率の哲学的議論のパイオニア。関連 の論文「何が条件付き確率ではありえないか」は米国科学哲学論文賞 (2004年)を受賞し、オーストラリア人文科学アカデミーフェローもつ とめる。スキーが趣味で、ニセコには何度も足を運んでいる。

Dr. Hájek specializes in the philosophical foundations of probability theory, decision theory, epistemology and philosophy of science, and he is also well-versed in mathematics and statistics. With the claim that conditional probability is the basis of all probability, he is well known as a pioneer of philosophical arguments on probability. His paper "What Conditional Probability Could Not Be" won the 2004 American Philosophical Association Article Prize, and he was a Fellow of the Australian Academy of Philosophy. He likes skiing and has often visited Niseko.

〈お問い合わせ〉

北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門(CoSTEP・コーステップ)

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 TEL&FAX: 011-706-5320

E-mail: costep_office@ml.hokudai.ac.jp https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp



申し込みはこちら

CoSTEP は科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる教育組織です。